

道 づくり

since 2012.6～



平田村では、雨が降ると砂利が流されて通行できない等の課題に対して、村が材料を支給し、地域の住民自らが村内の生活道路のコンクリート舗装を行う取組みが長年行われています。この取組みに2012年度から日本大学工学部土木工学科構造・道路工学研究室の学生も参加し、住民と学生との協働による道づくりが始まりました。



村民・役場・大学・建設業の4者が協働で道づくりを行い、4者それぞれにもメリットがあります。

- ・産：コンクリート舗装の普及、地元の信頼を得る
- ・学：現場実習ができる、地域貢献ができる
- ・官：財政とインフラの健全化を図る
- ・民：地域交流の場となり、活力向上につながる

道づくりの後は村民と学生との交流を深めています。



みんなで守る
橋のメンテナンスネット
日本大学工学部構造・道路工学研究室で
行っている取組を見ることができます。



平田村役場ホームページ内
日本大学工学部
タイアッププロジェクト



平田村役場 産業建設課

日本大学工学部土木工学科
構造・道路工学研究室

平田村×日本大学工学部 タイアップ プロジェクト

＼隣の村へつながる村道舗装！／



【道づくり】

役場・村民・学生との協働による村道舗装

【橋の名付け親プロジェクト】

村内の小学生による名無し橋への命名

【平田村発・橋のセルフメンテナンス】
平田村から全国へ展開中！橋の点検・清掃活動

Etc.

橋の名付け親プロジェクト

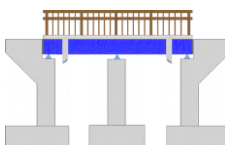
地域に長く愛される橋になってほしいという思いから、村内の小学生を対象に橋の名づけ親プロジェクトを企画しました。蓬田小学校には「33号橋」の名付け親に、小平小学校には「72号橋」の名付け親になっていただき、それぞれ「きずな橋」、「あゆみ橋」という素敵な名前を付けていただきました。



ワークショップの開催

2015年度から平田村の文化祭にて、子供たちへのワークショップを開催しています。橋の材料であるコンクリートを用いたキーホルダー工作にはたくさんの子供たちが体験しに来てくれました。固まっていないコンクリートを触る経験はなかなかないのではないのでしょうか。どのようにコンクリートが固まるのかも観察してもらいました。





橋の豆知識

橋の歴史

橋がない時代、川を渡るとは命がけでした。身一つで泳いで渡ったり、動物や船を使って渡った時代もあります。やがて安全を求めて、丸太や蔓、石を用いた橋が作られました。現代では、鋼やコンクリートを用いた橋が一般的になっています。

丸太橋 長さの限界 / 蔓橋 耐久性が低い / 石橋



日本最古の鉄筋コンクリート橋

日本で最初の鉄筋コンクリート橋は京都市の琵琶湖第一疎水に架かる「第11号橋」です。1903年に国産セメントの試験用で造られました。日本における鉄筋コンクリート橋の歴史はまだ100年程です。

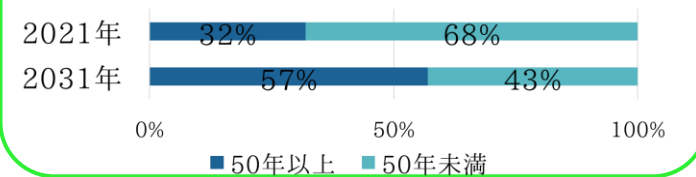


第11号橋

橋の老朽化

日本全国には72万橋の橋があり、約7割が政令指定都市を除く市町村が管理しています。高度経済成長期に集中して整備されたことによる一斉老朽化も大きな問題になっており、建設後50年以上を迎える橋の割合は2031年で57%に上り、あと10年もたないうちに半数以上になります。

建設後50年を経過する橋梁の割合



平田村から全国へ！橋のセルフメンテナンスモデル

平田村では「協働のむらづくり」の一環として、道路愛護や河川クリーンアップ等の道路や河川のごみ拾い、草刈り時に行政区ごとの橋の点検と清掃活動を行い、橋の長寿命化を図りながら地域の絆を深めています。これは全国初の取り組みとして注目されており、平田村から全国へ活動が広がっています。

橋のセルフメンテナンスとは？

地域の橋を、その利用者である住民や管理者らが日常的に点検し、簡易なメンテナンスを行うことにより、健全な状態に維持すること。右のチェックシートを用いて住民の方により点検が行われています。



橋が劣化する要因は？

橋が劣化する大きな要因は「水」が大きく関係しています。ひび割れや継ぎ目から雨水が浸透して、橋の劣化を進行させてしまいます。そのため、橋の上に雨水が溜まらないよう、排水機能を保つことが大切です。排水桝が土砂や雑草で埋まっていると、排水機能が低下してしまいます。そのため橋の上の土砂や雑草を清掃することが大切です。



橋も歯みがきが大切

橋の上の土砂や雑草を清掃することは、歯みがきと一緒です。皆さんも虫歯にならないよう歯を磨きますよね。歯みがきを怠って虫歯になり、さらに虫歯を放置すると治療費も高額になります。橋も同様のことが言えます。日頃から橋の歯磨きを行うことで、地域の橋を長持ちさせることができます。

